

Pulmonary Artery Pressure-Guided Management of Patients With Heart Failure and Reduced Ejection Fraction.

Givertz MM, Stevenson LW, Costanzo MR, Bourge RC, Bauman JG, Ginn G, Abraham WT; CHAMPION Trial Investigators.

J Am Coll Cardiol.2017 Oct 10;70(15):1875-1886.

心不全患者の肺動脈圧を遠隔モニタリングすることにより、患者の血行動態を把握し、心不全入院などを予防する strategy が近年注目されている。今回、2007-2009年に行われた CHAMPION trial に参加した HEFrEF 患者において、肺動脈圧遠隔モニタリングによる心不全治療群が、ガイドラインに沿った従来治療群と比較して、入院率・死亡率ともに大幅に改善していることが報告された。対象は NYHAⅢの心不全で入院した患者 456 人 (EF<40%) で、患者全てに事前にガイドラインに沿った最大限の心不全治療が行われている。18 か月間に渡り評価されており、心不全入院率はモニタリング群で 28% 低く (162 例 event rates:0.49 vs. 227 例 event rates:0.69)、生存率分析ではモニタリング群で 32% 死亡率が低かった (モニタリング 17.6% vs. 従来治療群 24.4%)。

Comment

これまでに肺動脈圧遠隔モニタリングは、HEFpEF 患者や ICD/CRT 植込み患者、また短期における benefit があることは、既に報告されていた。今回の報告で、十分な心不全治療が行われている HEFrEF 患者に対しても効果があることが示され、心不全の入院および死亡率において、肺動脈圧遠隔モニタリングは著明かつ一貫した治療効果があることが示されたことになる。心不全の外来診療が画期的に変化する可能性を秘めており、今後本邦でも導入されることが期待される。その他にも肺動脈圧モニタリングによって、心不全入院・死亡リスクを予測したり、これまで不明であった心不全患者が代償不全に変化する、時系列に沿った血行動態メカニズムなどに関する研究も進行しており、報告が待たれる。